■海運・造船業界の求人動向（ ２０１６年７月現在 ）

【全体の動き】

円高の影響や海運市況を見ているのか、求人数の増減はほとんどない。一方で即戦力を採用するニーズが高まり、監督業では海務／工務／建造ともにシニア人材も含め積極的に採用している。特に船長経験のある海務監督は高額年収で、全般的に経験に応じた年収が提示される傾向にある。営業部門も即戦力を期待する声が強く、実務経験者に加え若手の指導育成ができるシニア人材の採用も視野に採用活動を行っている。また海外拠点の営業責任者候補として、実務と人脈を併せ持つ人材を期待する求人も複数出ている。

【営業系-船舶運航管理、用船など】

商社系海運会社、外資系シップブローカーでのPost Fixture業務（用船契約の管理、用船料の支払いの計算、入出港や荷役に関する様々な手続きなど）が依然として多く、どちらも即戦力を希望。ただし、経験レベルは実務５年程度から数十年と非常に幅が広く、管理職経験のあるシニアには高い年収が提示されている。

【海技系-船舶管理、工務・海務監督】

商社系海運会社は求人のほとんどが工務監督、船舶管理会社は海務３：工務７、船社は海務４：工務６くらいの割合。海上／陸上で充分な経験を持つ監督であれば、年収は海務／工務ともに９００万円からの提示が多い。ここ数カ月は新造船の建造監督の求人が増加傾向にあり、１０年程度の経験であれば６００万円からの提示となっている。

【その他-船級、外資メーカーなど】

舶用機器の営業求人が、メーカー（日系／外資系）、商社からも増えている。特に技術知識、海外交流経験のある人材のニーズが高く、条件を満たす人材であれば高い年収が提示されている。

**■最新求人動向からみる 転職アドバイス**

現在、市況悪化の影響が大きいことに加え、新入社員を受け入れてから日も浅く、今の時期は即戦力を採用する意向が強い時期です。そのため、陸上で仕事をしたいと漠然と考えている２０代後半から３０歳前後の初めて転職を考えている年齢層の方々は、情報収集から始めてみてはいかがでしょうか。海運業界全体の仕事や海上経験を活かせる仕事を知り、待遇だけでなく、将来的な事も含めじっくり考えてから応募されることが大切です。

　海運業界で慢性的な人材不足となっているのが、海上職から転職した陸上経験５年～１０年程度以上の３０代～５０代の海務監督や工務監督です。多くの企業がこの年齢層を補充したいと考えていますので、求人全体の動きを見ながら、職務内容や船種、待遇面もよく確認し、慎重に転職活動を行い希望条件に合う企業をご検討いただくことをお勧めします。

　最近活発となっているのが、定年を超えた層の監督（海務・工務・新造船建造）の求人の動きです。積極的な工務監督採用だけでなく、船長経験を有する海務監督や新造船建造監督のニーズも高く、多くのベテラン層が動いています。求人ニーズとタイミングが合えば、短期間で転職決定となるケースも多いため、まずはお問合せください。

＜情報提供元＞キャプラン株式会社　担当：佐々木

TEL：03-3497-9335　MAIL：marine@mail.caplan.jp